



JICA 中小企業・SDGs ビジネス支援事業
「太陽光発電・蓄電機材及びクラウド型 IoT 監視システムの
普及・実証・ビジネス化事業」 機材譲渡式を開催

2025 年 3 月 24 日
国際協力機構（JICA）ベトナム事務所

JICA は開発途上国が抱える社会課題の解決に貢献することを目的とした中小企業・SDGs ビジネス支援事業において、ニイヌマ株式会社（宮城県石巻市）から提案のあった「太陽光発電・蓄電機材及びクラウド型 IoT 監視システムの普及・実証・ビジネス化事業」を 2020 年度に採択し、2025 年 3 月 24 日に JICA ベトナム事務所にて、本事業の「機材譲渡式」を実施しました。

ニイヌマ株式会社は創業 100 年企業で、2019 年からはベトナムにも拠点を置き、LED ライト、太陽光発電事業をはじめビジネスを展開し、CSR（Corporate Social Responsibility）活動も積極的に行っています。

通常、山岳地帯まで送電線を引くには膨大な費用と時間がかかります。そのため、ベトナム北部山岳地帯のイエンバイ省では約 6,000 世帯、その内、ムーカンチャイ県では 1,400 世帯が電気のない生活を送っています。

本調査では、ムーカンチャイ県内 300 世帯に太陽光発電機・蓄電機を設置することで、人々に電気のある生活を提供し、また、同社の知見を活かした機材の運用・評価を行いました。

機材譲渡式では、ムーカンチャイ人民委員会、在ベトナム日本国大使館、JICA などの関係者が参加し、JICA・ニイヌマ株式会社からムーカンチャイ人民委員会に対し、クラウドベースの IoT モニタリングシステム、太陽光発電・蓄電機材各 300 個等を譲渡しました。

ニイヌマ株式会社からは、本事業の成果報告とベトナム関係機関の事業への協力に対する御礼の挨拶、ムーカンチャイ人民委員会からはプロジェクトの効果についての発表がありました。

ニイヌマ株式会社は発表の中で成果について触れ、本事業において、太陽光発電・蓄電機材を設置した 300 世帯向けに行ったアンケートの中で、90%以上が本事業に満足してお



り、「懐中電灯の充電や照明の使用により子どもが快適な環境で勉強できる」、「以前のように火をおこす必要がないので部屋の空気が汚れない」、「家族との会話や近隣との交流が増えた」等、非常に多くの効果が出ていることを報告しました。また、「発電量が増えてほしい」といったさらなる期待も寄せられ、ニイヌマ株式会社は、引き続きベトナム山岳地帯でのより良い事業展開を進めていきます。

JICA は引き続き、ベトナムでの電化や安定的な電力供給に関する取り組みを支援していきます。

お問い合わせ: JICA ベトナム事務所 広報班 土本 周

Tel: (+84-24) 3831 5005(内線 166)E-mail: Tsuchimoto.Amane@jica.go.jp